

## 紹介 Janet Henshall Momsen, Gender and Development

著者	倉光 ミナ子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジア経済
巻	46
号	3
ページ	105-105
発行年	2005-03
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00007607">http://hdl.handle.net/2344/00007607</a>

Janet Henshall Momsen,

*Gender and Development.*

London: Routledge, 2004, xvi+272pp.

くらみつ ミナ子

本書は、発展途上地域を中心とした開発問題の解決のために、再生産、生産、コミュニティ活動といった日常の生活から、環境問題、グローバル化といった最近の状況を含め、あらゆる側面におけるジェンダー平等の推進が必要であることを指摘している。その具体的な内容は、開発におけるジェンダー平等とそのための政策（第1章）、人口構成比に現れる人口政策や移動の問題（第2章）、妊娠、出産、教育といった再生産領域におけるジェンダー格差（第3章）、健康的な生活や多様な暴力におけるジェンダーの問題（第4章）、地球環境問題や資源管理におけるジェンダーの側面（第5章）、農村部におけるジェンダー格差（第6章）、都市化に伴って増加する生産労働とジェンダー格差（第7章）、経済と情報のグローバル化におけるジェンダーの問題（第8章）、そして、21世紀初頭におけるジェンダー不平等とそれを是正する試み（第9章）の全9章から構成されている。

「ジェンダーと開発」をめぐる問題を全般的に取り扱っている本書は次の点において卓越した特徴をもつ。第1に、世界の様々な地域でフィールドワークに携わってきた著者の経験から、地域的な多様性、すなわち、社会的・文化的性差としてのジェンダーが強調されている点である。本書が取り上げている地域は、アフリカ、ラテンアメリカ、カリブ海諸国、中東、南アジア、東南アジア、東アジア、そして東欧や中央アジアなどの旧共産圏と多岐にわたり、その地域間の差異は統計や事例によって効果的に提示されている。このような点は「ジェンダーと開発」というひとつの事象が、いかに地域によって異なった影響や問題を生み出すのか、地域間で比較したり、各地域の特徴を概観したりするのに有益である。第2に、

「ジェンダーと開発」をめぐる新しい課題として、1990年代の様々な国際会議でのテーマ、例えば、環境、人権、健康、暴力などとジェンダーの関わりが紹介されている点である。中でも特に、深刻化しているエイズの問題、市場経済の推進に伴う様々な暴力の出現、持続的な発展のための資源管理や住環境の問題などは、現代の発展途上地域だけではなく、日本における潜在的な問題としても関心を抱いて読むことができる。第3に、急速に進むグローバル化の流れから新たに生じつつあるジェンダー格差の問題について取り上げられている点である。ここでは、新国際分業の出現が女性の雇用に影響を与えるだけでなく、女性労働のあり方そのものが国際移動する女性たちによって重層的に変容していくことや、コミュニケーション手段やITの発達による教育・エンパワーメントの新たな可能性が提示されている。また、グローバル化の別の側面として、市場経済の導入で変動している旧共産圏の事例は国家によるジェンダー平等の実現の限界を示唆しているだろう。これらの点は、グローバル化が進む中でより深刻に複雑になっていく「ジェンダーと開発」の問題の難しさを改めて強く認識させてくれるのである。

現在、「ジェンダーと開発」というテーマを取り扱った書籍は英語で書かれたものはいうまでもなく、日本語で書かれたものも年々増加している。そのような中で、本書は、各章ごとに、取り扱われている問題を確認するための予習・復習の項、その章の内容を深めていくために議論すべき課題、そして、さらなる学習のための参考文献とWebページのリストが付いている点で、優れたテキストとなっている。本書を利用すれば、開発問題の中でも改めてジェンダーの側面に関心を抱いた人は、それに関する多彩なトピックを網羅的かつ必要なものから効率的に知ることができる。また、開発問題におけるジェンダー平等の重要性、日常生活におけるジェンダー格差とその地域間の差異といった基礎的な内容がわかりやすくまとめられているので、教育の現場においても大いに活用することのできる一冊である。

(お茶の水女子大学大学院人間文化研究科助手)